

# 少林寺拳法



防衛大学校少林寺拳法部

平成11年度 部誌・OB会報 NO. 26

## 目 次

### 部 誌

- 1 部長挨拶  
化学教室 教授 菅野 等
- 2 学生寄稿  
4 4 期 主将 渡邊 俊明  
副将 伊藤 恒和  
4 5 期 主将 八木 新  
副将 澤水 隆一  
4 6 期 高木 聰  
伊藤 和典  
4 7 期 矢野 健一  
谷口 裕明
- 3 平成1 1 年度活動成果
- 4 各種大会個人成績
- 5 平成1 2 年度年間活動計画
- 6 平成1 1 年度 部員名簿
- 7 少林寺拳法部第4 5 期政権編成表

### 奥平会報

- 1 巻頭言  
奥平会会長 1 7 期 石渡 幹生
- 2 今後の活動資金について
- 3 期連絡網
- 4 平成1 1 年度奥平会活動概要
- 5 平成1 2 年度奥平会活動予定
- 6 連絡事項
- 7 奥平会名誉会員名簿

別紙第1 「平成1 1 年度奥平会活動成果報告」

別紙第2 「平成1 1 年度奥平会決算報告書」

付録 「奥平会員名簿」

## 2000年を迎えて

部長 菅野 等

合掌

いよいよ21世紀ももうすぐになりました。例年に較べて大分遅く、桜の開花予報を聞きながらこの挨拶文を書いておりますが、全国のOB諸兄にはお元気で活躍のことと存じます。防衛大学校は、学科再編が行われ、創立50周年を迎えるにあたり、本館や図書館などが新しく建て替えられつつあり、大きく変貌中です。きっとOB諸兄が母校を訪れた際には、立派に変貌しているのに驚かれることと思います。

防大少林寺拳法部にもうれしい兆しが見えて来ました。現在一年生の部員数は13名で、ここ5年以上続いていた部員数減少がようやく止まりました。これから毎年少しずつ盛り返して、昔のように大人数の部にしたいと考えております。ただ、部員数が増加に転じたとは言え、この4月からの四年生は4名と厳しい状況で下級生の指導に当たらなくてはなりません。

平成11年度は、部員数が少ない事を考えると、主将の渡辺君を中心にして良く頑張り、関東学生大会及び全日本学生大会とも良い成績を取めたと言えると思います。これも田村、神田および頼富師範の適切な指導と米山監督を中心とする防衛大学の顧問団の指導と支援も大きな力になったことは言うまでもないことです。現在八木君が主将になって、新体制で練習に精を出しております。少林寺拳法部としては、まだまだ厳しい状況ですので、OB諸兄のこれまで以上のご支援とご指導をお願い申し上げます。

結手

## 「政権を終えて」

44 期主将  
渡邊 俊明

合掌

この 4 年間をふりかえると、私が少林寺拳法で得たものは非常に大きかったということを感じます。少林寺を始めたきっかけは人それぞれでありましょう。しかし我々が得たものは大会における栄光や無念は勿論の事、同期との連帯感、そして少林寺の数多くの教え、それらは全て我々を成長させてくれました。44 期は 7 名と今までの政権の中ではもっとも少数でしたが、各人における責任感や役割は今までのどの政権よりも重く、またそれを良く実行できたと感じています。45 期以下の諸君は、ぜひともこの少林寺拳法部の優れた伝統を受け継ぎ、ますます部の隆盛を図り、新たな 1 ページを防大少林寺拳法部の歴史に刻み続けてくれるものと信じています。最後になりましたが、我々をいつも温かく見守ってくださり、御指導、御鞭撻を戴きました師範、部長、顧問、OB の方々に感謝致したいと思います。

4 年間本当にありがとうございました。

結手

## 「4 4 期政権を終えて」

44 期副将  
伊藤 恒和

合掌

「4 3 期が引退し、これからどうやって少林寺拳法部を運営していこうか」と考えていたのもう 1 年前の話。今は 4 5 期が同じような気持ちで日々試行錯誤していることだと思います。

本年度は 4 7 期が多数入部し、人数的にも活気がでてきました。上級生と下級生とのつながりも以前より強くなり、厳しいながらも楽しく活動できる雰囲気をつくったのではないかと思います。

4 5 期の新政権は 4 人という人数で大変かもしれないけど、伝統という圧力などは気にせずに自分たちの信じる道で後輩の指導をしてください。4 6 期以下の部員は、受け身の気持ちではなく自分なりの目標を定めて練習に励み、また 4 5 期を信じてクラブを盛り上げてください。1 日 1 日の小さな努力はいつかきっと実を結びます。

私個人としては怪我ばかりで 4 4 期にはずいぶん迷惑をかけましたが、師範、部長、監督、顧問、OB の方々や、同期、後輩達の協力があってのおかげで最後までやり通すことができました。皆様の御支援、御支援に感謝します。

結手

## 「政権を迎えて」

45 期主将

八木 新

合掌

我々45期が政権を執り、早くも新年度を迎える時期が来ました。45期は4幹部のみの政権であります。関東・全日本を迎えるこの時期に、後輩指導への決意を新たにしております。

また、新入生の入校に際し、近年の部員不足を解消し、我々の後輩が安心して少林寺拳法の上達に励むことの出来る環境づくりの為の準備を行っております。

温故知新という言葉がありますが、我々45期にはさらに、古き良き伝統を守りながら、新しい防大少林寺拳法部を創っていくという使命が課せられており、その重責を全うすべく、日々精進しております。

最期になりましたが、師範、部長をはじめ監督、顧問・OBの方々に感謝するとともに、これからも変わらぬ御支援・御指導を賜りますよう宜しく御願い申し上げます。

結手

## 「防大少林寺拳法部」

45 期副将

澤水 隆一

合掌

私が政権になってまず思ったことは、部の運営・指導の難しさです。我々45期は人数が4人と今までになく少人数なので、練習中全員に目が行き届かず四苦八苦で、今まであんなに長かった練習時間があったという間に過ぎてしまいます。

現在2学年7人、1学年13人と部員がだんだん増えてきています。この調子で部員を確保していき、時には楽しく、時には厳しい活気あふれる部にしていきたいと思えます。また、向上心がないと成長の速度が著しく低下してしまうので、常に向上心を持てるような練習メニューを考えていきたいと思えます。そして指導者として、道院に通う等して技術向上にも努めたいと思えます。

今まで諸先輩方が作り上げられてきた防大少林寺拳法部の伝統・名に恥じぬよう、部員一同一丸となって日本一目指して日々精進していきたいと思えますので、今後とも諸先輩方の変わらぬ御指導・御鞭撻をよろしく御願い致します。

結手

## 「防大少林寺拳法部と私」

46期 高木 聡

合掌

防大少林寺拳法部に入って、はや1年と7・8ヶ月。中学・高校とノンポリですごしてきた私にとって想像もつかない事を多々経験できました。今までの中で最も印象深い事は、同期達と2回の夏合宿、茶帯、黒帯期間を通じて分かり合えた事です。これは他の部活では絶対に経験できない事だと考えます。また、同期の阪井拳士は2年連続でダーマに会う事ができ、大変喜んでおります。この場をかり、阪井拳士に代わって、厚く御礼申し上げます。合掌。

さて、このような私も2年に無事に進級でき、様々な事を考えるようになりました。その中でも、最重視している事は、「気持」を大事にするという事です。B・アダムスさんは、その詩のなかで「18 till I die」と唄っていますが、私もこの気持ちに負けず、真純単一にこの法の修行に専念しようと思っております。

また、1999年度は一学年が沢山入部し、喜ばしい限りでした。2000年もこの調子で益々の活性化を目指し、私達46期が、政権の方々のご指導の下、一丸となって新入生勧誘を行い、拳法部を盛り立てていきたいです。

結手

## 「少林寺拳法と私」

46期 伊藤和典

合掌

私が少林寺拳法を始めて2年がたちました。私がこの部に入部したきっかけは入校する前から武道をしようと決めていたことと、たまたま入校時の部屋長が少林寺拳法をやっていたからです。

始めてみて思ったことは、少林寺拳法は剛法と柔法とがありとても奥が深く、なかなかうまくならないということです。上級生の技を見てみると、「こんなに上手くなれるのだろうか。」と不安に思いました。しかし日々練習をつみかさねることによって少しずつ上達してきました。2年目ということもあり、さまざまな大会、本山合宿を経験しました。またその都度たくさんものを学んできました。

防衛大学校少林寺拳法部はまだ2年ほど続けることができます。これからは、得てきた知識や経験を活かしていきたいです。また、これからもいろいろなことを経験し学び、日々うまくなれるように努力を惜しまず、がんばっていこうと思います。

結手

## 「全日本学生大会に出場して」

47期 矢野 健一

合掌

私が防大に入校して、少林寺拳法を中心として過ごした日々も、もう後期になってしまいました。今までの防大生活における私の一番の思い出は、全日本学生大会に出場したことです。私は高校のときから少林寺拳法を習っていて、大会は近畿大会まで行ったことがあります。今回の全日本大会は、それを遥かに上回る人数と、規模の大きさに驚かされました。しかし本番はほぼ練習なみの完成度で挑みましたが、予選は通ったものの、組演武、単独演武共に本選で入賞することは出来ませんでした。しかし私は他大学の拳士達の演武を見て勉強になり、また自分の練習の方法にも改善の余地があることに気づかされ、大変多くのことを得ることが出来ました。

私はこの大会で得たものを身につけて、次の大会まで1日1日を大切に練習に励み、そして自分自身を高めて「強くなること」を今年の目標として次の大会を目指したいと思います。

結手

## 「全日本出場まで」

47期 谷口 裕昭

合掌

私は、段外の部で全日本に出場し、入賞しました。この入賞できたのも、上級生のおかげと日々の練習の成果です。

私たち1学年にとって、練習開始、2、3分前はとても長く感じます。また、鉄棒の上で待っている時ほど憂うつな時はありません。ポンド坂、ポンド階段とも友達になれ、私たちを楽しく苦しませてくれます。路上での拳立ても快感に思えてきました。このような練習をしているうちに強大な精神力が付きましました。だからこそ、全日本大会での大勢の中緊張することなく落ち着いて演武ができました。

全神経を集中させて演武をすると息が切れ、体力を消耗します。しかし、体力もまた日々の練習で鍛えてあるので大丈夫です。

どんなにきつく、苦しい中でも、なぜか笑顔で走ったり、練習できる、こんな防大少林寺拳法部が私は大好きです。次こそは、最優秀の三文字を勝ち取って来ようと思います。

結手

## 平成11年度活動成果

期 間	行 事	場 所	大会等成果
5月4日	関東学生大会	日本武道館	級拳士 優良賞・敢闘賞 男女有段 敢闘賞 団体演武 優良賞
5月15日	新入生歓迎行事	防衛大学校	
6月5日	慶応・早稲田大学との 合同練習	防衛大学校	
8月1日～ 8日	夏合宿	武山駐屯地	
10月9日 ～10日	全自衛隊大会	木更津駐屯地	級拳士 最優秀賞 男子初・二段 優良賞
10月24日	全国大会	新潟市東総合スポー ツセンター	防大顧問 井上・上野が 出場
10月31日	全日本学生大会	日本武道館	団体演武 敢闘賞 男子段外 敢闘賞 男女段外 最優秀賞 男女有段 優良賞 女子単独演武 敢闘賞
11月上旬	政権交代	防衛大学校	
11月23日	第6回関東学生OB現 役懇親会	防衛大学校	
11月28日	横須賀市民大会	横須賀南部体育館	一般三段以上 最優秀賞 一般初・二段 優秀賞 一般段外 優秀賞 一般単独演武 優秀賞
1月31日 ～2月4日	寒稽古	防衛大学校	
2月19日	少林寺拳法部OB杯	防衛大学校	
2月19日	納会	横須賀中央セントラ ルホテル	
3月24日 ～27日	春合宿	防衛大学校	



## 各種大会個人成績

### 関東学生連盟大会(平成 11 年 5 月 4 日：日本武道館)

男子単独の部	決勝進出	441(4)伊藤恒和
女子単独の部	決勝進出	443(4)遠藤由紀子
男女段外の部	決勝進出	221(2)阪井旭・432(2)高橋牧子
男女有段の部	敢闘賞	441(4)渡邊俊明・443(4)遠藤由紀子
男子段外の部	敢闘賞	142(2)高木聰・223(2)伊藤和典
男子段外の部	優良賞	123(2)菊地裕紀・342(1)村重亮
団体演武の部	優良賞	441(4)渡邊俊明・311(4)西尾実 441(4)伊藤恒和・432(3)八尋幸一 223(3)津森聡・141(3)堤允良

### 全日本学生大会(平成 11 年 10 月 31 日：日本武道館)

男子単独の部	決勝進出	441(1)矢野健一
男子初段の部	決勝進出	111(1)杉江功圭・441(1)矢野健一
男子段外の部	敢闘賞	113(1)田中勝茂・142(1)谷口裕昭
女子単独の部	敢闘賞	443(4)遠藤由紀子
団体演武の部	敢闘賞	441(4)渡邊俊明・311(4)西尾実 441(4)伊藤恒和・113(4)増山哲治 432(3)八尋幸一・141(3)堤允良 221(3)八木新・442(3)澤水隆一
男女有段の部	優良賞	443(4)遠藤由紀子・432(3)八尋幸一
男女段外の部	最優秀賞	142(2)高木聰・432(2)高橋牧子

### 第 26 回全自衛隊大会(平成 11 年 10 月 10 日：木更津基地)

組演武初二段	優良賞	111(1)杉江功圭・441(1)矢野健一
組演武級拳士	最優秀賞	142(2)高木聰・432(2)高橋牧子

### 横須賀市民大会(平成 11 年 11 月 28 日：横須賀南部体育館)

組演武一般三段以上	最優秀	443(4) 遠藤由紀子 研究科 上野洋介
組演武一般初・二段	優秀	123(2)菊地裕紀・221(2)阪井旭
組演武一般段外	優秀	113(1)田中勝茂・142(1)谷口裕昭
一般単独演武	優秀	122(2) 山本剛嗣

## 平成12年度年間活動計画

期 間	行 事	場 所	備 考
4月中旬	全力で勧誘（目標22名）		
5月4日	関東学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
5月中旬	新入生歓迎行事		
6月中旬	慶応・早稲田大学との合同練習	防衛大学校	
	昇段審査	藤沢高校	2・3・4年がそれぞれ受験
7月16日	神奈川県大会（第1部）	横浜文化大会	全国大会選考会出場資格獲得
8月上旬	夏合宿（第1部）	防衛大学校	
8月下旬	夏合宿（第2部）	少林寺拳法連盟本部	
時期未定	全自衛隊大会	未 定	
9月10日	神奈川県大会（第2部）	厚木市体育センター	全国大会選考会を兼ねる
10月8日	横須賀・三浦地区大会	鎌倉	
10月15日	全日本学生大会	日本武道館	目標：団体演武最優秀
11月5日	全国大会	日本武道館	国際大会選考会を兼ねる
11月上旬	開校祭		演武の披露
	政権交代		
11月23日	第7回関東学生OB現役懇親会	未 定	
1月下旬	寒稽古	防衛大学校	
2月中旬	OB杯演武大会・納会 OB総会	防衛大学校	
3月下旬	春合宿	未 定	

\* 尚、各月一回を基準に師範日を予定

# 平成 11 年度 部員名簿

(平成 12 年 1 月 1 日現在)

期別	小隊	専攻	要員	氏名
4 4 期	1 1 3	電子	陸	増山 哲治
	2 1 3	材物	空	若林 友和
	3 1 1	国関	海	西尾 実
	4 4 1	応化	空	伊藤 恒和
	4 4 3	地科	陸	遠藤 由紀子
	4 4 1	電気	陸	渡邊 俊明
4 5 期	1 4 1	機シ	海	堤 允良
	2 2 3	国関	海	津森 聡
	2 2 1	国関	陸	八木 新
	4 3 2	電子	陸	八尋 幸一 *
	4 4 2	土木	陸	澤水 隆一
4 6 期	1 2 2	国関	空	山本 剛嗣
	1 2 3	数物	陸	菊池 祐紀
	1 4 2	国関	陸	高木 聡
	2 2 1	管理	陸	阪井 旭
	2 2 3	通信	海	伊藤 和典
	4 3 2	機工	陸	高橋 牧子
4 7 期	1 1 3	理工		田中 勝茂
	1 1 1	理工		杉江 功圭
	1 4 2	理工		谷口 裕昭
	1 4 2	理工		半澤 武久
	1 4 3	理工		吉武 和哉
	2 2 1	理工		久郷 一雄
	2 2 2	理工		溝上 雅央
	3 4 2	理工		村重 亮 *
	4 2 3	理工		樋口 智志
	4 3 1	理工		村上 明子
	4 4 1	理工		矢野 健一
	4 4 2	人文		本田 一郎
	4 4 2	理工		松尾 崇嗣
	4 4 3	人文		関家健一郎

\*印：留年

## 少林寺拳法部第 45 期政権編成

役職	氏名	所属	要員・専攻
主将	八木 新	2 2 1	陸上・国関
副将	澤水 隆一	4 4 2	陸上・土木
統制長	堤 允良	1 4 1	海上・機シ
道場長	津森 聡	2 2 3	海上・国関
主務	津森 聡		
会計	堤 允良		
安全	澤水 隆一		
訓練係	八木 新		
3 年係	堤 允良		
2 年係	八木 新		
2 年係補佐	津森 聡		
1 年係	澤水 隆一		
師範係	澤水 隆一		
本山係	八木 新		
OB 係	津森 聡		

# 奧平會報



## 巻 頭 言

結 手

全国各地でご活躍の奥平会の皆様、それぞれの地で新ミレニアムに相応しい新年をお迎えのことと存じます。

昨年7月に鈴木陽陸将補から会長職を引き継ぎながら、ご挨拶がここまで遅れましたことを深くお詫び申し上げます。奥平会としては例年通りの活動をごく一部の会員によって続けてきておりますが、このような状態は誠にあって歯がゆい次第ながら現実であります。奥平会を組織的に発展維持させる何か良い方法は無いものでしょうか。

奥平会が抱える主たる問題点は、①会長の指名制度のあり方、②資金不足、③現役の学生の活動に対する支援のあり方、であり、ここ数年続いている懸案事項です。

10期生の方が少林寺拳法の産声を上げて以来約30年が経過しました。現役の活動、充実した指導体制などは、創設期から部員数の増加が顕著であった時代は、何も問題とすることなく順調でありましたが、諸先輩の方々が現役を退きつつあり、現役の部員数が極端に落ち込み始めた昨今、上記の問題が大きく浮上してきた次第です。

そこで、奥平会本部におきまして各種の案を検討し、総会において一応の了解が得られたとしたら、これをもって爾後の活動指針として進めて参りたく皆様方のご理解とご協力をお願いいたします。

全自衛隊少林寺拳法連盟も年一回の大会を開催しておりますが、未だ知名度が低いこともあって周知されておられません。しかし、この大会では現役の学生やOBが選手や役員となって大会を盛り上げていることも事実であり、機会があれば是非顔をお出し頂き激励や大会の運営に是非とも参加されるよう、合わせてお願い申し上げます。

皆様方の更なるご活躍とご健勝を祈念いたします。

合 掌

防衛大学校少林寺拳法部奥平会会長

石 渡 幹 生

## 今後の活動資金について

防大奥平会会計係 2等陸尉 遠藤英隆(39期)

(1) H11年度会計(平成11年1月1日～12月31日)について

収入		支出	
前年度繰越金	1,571,556 円	平成11年度会報発行費	40,631 円
OB会費(43期10名)	537,000 円	各種大会支援	200,000 円
支援金等	10,000 円	合宿支援	10,000 円
利息	21,418 円	技術向上支援	300,000 円
合計	2,139,974 円	奥平会運営及び活動費	108,022 円
		合計	658,653 円
残高(収入-支出)=2,139,974-658,653=1,481,321 円			

11年度の会計は10年度から引き続き支出事項の見直しを行い、現在の少林寺拳法部の活動事情に合致した支出へと改善を図っております。今年度は、前年度会計担当者の御尽力により現状に沿った支出の方向性が確立されつつあり、昨年度とほぼ同水準の支出を維持できると思われます。

(2) 残高推移の試算

今後、今年度と同様に会費発行費、備品購入費等の削減を行った場合、技術向上支援を除いた平成11年度の支出合計は、約36万円程度に抑えることができました。これに30万円の技術向上支援(H12年度は¥200,000に改定予定)を含めると、本年度も合計で約66万円の支出となります。これは、前年度から部誌発行関係費に含まれる印刷代約15万円を削減することに成功したためです。しかし来年度も印刷代を削減できるかは定かではありません。また、本年度は学生が春合宿を行わず、夏合宿は武山駐屯地で行い、本山合宿にも一部の者のみが参加したため、合宿支援の出費が1万円で済んだことも支出抑制に繋がりました。奥平会の収入が減少していることを考えればこうした出費の抑制は好ましいことかもしれませんが、最近の成績低迷を考えれば、これは改善すべき状況であると思われます。さらに、昨今の新入部員の減少にも何らかの対策が必要となっております。

## 其月連絡各網

### 1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

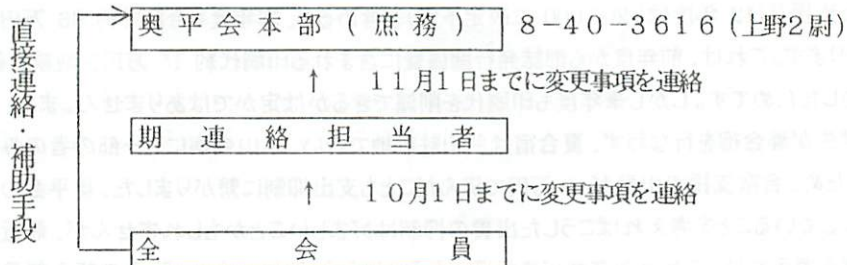
### 2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者をおく。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年10月1日までに同期生の連絡担当者へ連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年11月1日までに奥平会本部（防大庶務）へ連絡する（連絡の無い場合は、防大同窓会名簿及び昨年度のデータを用いる）。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人ごと直接又は連絡担当者を通じて奥平会本部へ連絡するものとする。

### 3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を指名する（継続を妨げない）。

### 4 期連絡網





## 5 期連絡担当者

10	10A	蔵田 弘明	退職	27	27F	堀田 隆治	浜松
11	11A	勝野 建朗	退職	28	28A	湯浅 悟郎	檜町
12	12A	衛藤 利治	小郡	29	29A	甲斐 正人	市ヶ谷
13	13A	高本 俊之	千僧	30	30A	福田 洋司	檜町
14	14A	清水 重周	真駒内	31	31N	迫田 浩文	市ヶ谷
15	15A	上杉 和壽	朝霞	32	32A	福重 毅尚	大阪
16	16A	富本 啓一	丘珠	33	33A	富樫 勇	目黒
17	17A	福澤 賢	練馬	34	34A	竹内 博忠	檜町
18	18F	笠原 久	防大	35	35A	戒田 重雄	目黒
19	19A	前之園敏雄	勝田	36	36A	藤岡 忠生	富士
20	20A	小林 実	富士	37	37N	高取 哲朗	鹿屋
21	21A	湖崎 隆	檜町	38	38A	奇藤 浩	神町
22	22A	松村 利宏	川内	39	39A	中村公多朗	霞ヶ浦
23	23A	日高 政広	相模原	40	40A	上野 洋介	防大
24	24F	中館 利光	人間	41	41A	後藤 仁志	守山
25	25N	内山 哲也	呉	42	42A	古賀 信之	千僧
26	26F	福島 睦	百里	43	43A	廣瀬 繁	北熊本

## 平成11年度奥平会活動概要

### 1 現役部員に対する支援

夏季合宿、市民大会、全自衛隊大会、関東・全日本学生大会等に対して支援を実施致しました。細部は別紙第1の通りです。特に顧問の少ない中、事故もなく各種行事を乗り切れましたのも、OBの方々が多忙中にもかかわらず、大会等の応援に駆けつけてくださったお陰と感謝いたしております。来年度につきましてもできる限り大会の予定を御連絡いたしますので、応援のほどよろしくお願いします。

### 2 総会の実施

平成12年3月13日、検町駐屯地において、検町駐屯地在勤会員及び防大会員約40名の出席を得て、総会を開催しました。出席いただいた会員の方々、ありがとうございました。

総会では、活動報告及び会計報告を行ったほか、会長の指名制度の改正、会費の特別徴収及び奥平会活動の活性化について発議し、以下の通り承認されました。

#### (1) 会長の指名制度の改正

現行会則10条の3では「会長は、原則として防大又は防大近傍勤務の会員の中から前任者の推薦によって選考する。」となっておりますが、奥平会活動の継続性、一貫性の保持という観点から、次期会長から各5年周期で陸海空の持ち回りとするようになりました。よって、会則第10条の3を「会長は、

陸海空自衛隊の5年周期の持ち回りとし、任期に当たった自衛隊の中で防大又は防大近傍勤務の会員の  
中から当該自衛隊会員の先任者の推薦によって選考する。5年の間に転属等で会長の交代が必要になっ  
た場合は、当該自衛隊会員の中から次期会長を選考する。」に改正することで承認されました。

(2) 会費の特別徴収

奥平会の会費の徴収要領は、会則第5条において「20期以前の会員は一律5,000円、21期以  
降の会員は卒業時における手当の2分の1(1,000円未満切り捨て)を終身会費として納入するも  
のとする。なお、いったん納入した会費は返納しない。」となっておりますが、少林寺拳法部在籍部員  
の減少から、下記の通り4年後には赤字会計に転落します。

ア	平成11年度残高		1,481,321円
イ	OB会費収入	平成12年度	卒業生6名×53,000円=318,000円
		平成13年度	卒業生4名×53,000円=212,000円
		平成14年度	卒業生6名×53,000円=318,000円
		平成15年度	卒業生8名×53,000円=424,000円
ウ	年度平均支出		70万円
エ	残高予想	平成12年度	約110万円
		平成13年度	約61万円
		平成14年度	約23万円
		平成15年度	約-5万円

今後、部員減少に歯止めをかけ十分な会費を徴収できる部員を確保するためには、部活動の活性化を  
図り新入部員獲得に奥平会として支援していくことが必要と考えます。そこで、以下の通り今後の活動  
経費見積もりを立てました。

ア	会報発行費(印刷費15万円含む)	現行8万円	→	23万円
イ	大会等支援(合宿・大会支援の拡大)	現行16万円	→	26万円
ウ	技術向上支援(師範への謝礼金)			20万円
エ	奥平会運営等費			18万円
オ	新入部員獲得支援(新規:1,5万円×新入部員20名)			30万円

支出見積合計 117万円

このような事業を運営する経費を確保するには卒業生が22名以上必要ですが、部の現状からここ数  
年間はかなり額が不足することになります。また、放っておけば4年後には奥平会の活動は全くでき  
なくなってしまいます。よって、本総会において会則第6条「前条に定めるほか、特別の出費を要する

ときには、その都度会員から特別会費を徴収する。」を適用し、以下の通り会員から特別会費3000円を徴収することで承認されました。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>○ 徴収額<br/>3000円 / 1人</li><li>○ 徴収方法<br/>各会員毎又は各駐屯地・基地一括での郵便口座振り込み</li><li>○ 納入期限<br/>平成12年11月1日までに納入お願いします</li><li>○ 徴収期間<br/>平成12年度から卒業生が22名以上に増加する年度まで</li></ul> |
|--|

3000円/1人は、年間平均卒業生が8名で正規会費による収入見込みが42万円であり、OBからの徴収率を40%（他部参考）として計算したときに不足分の75万円を補う事の出来る金額です。この特別徴収を円滑な軌道に乗せるためには、会員の皆様のご協力が必要です。そのため、初年度においては、各駐屯地・基地で一番若い会員の方に徴収業務を依頼するとともに、期連絡網を通じて徹底を図っていただきたいと思いますので、よろしくご協力お願いいたします。納入された方は毎年会報において報告し、これをもって領収証に代えさせて頂きたいと思っておりますので、同封の振り込み用紙にて指定口座にお振り込みください。

### (3) 現役の部活動に対する支援の活性化

奥平会による少林寺拳法部支援は、防大在籍会員を中心に継続されてきましたが、部員の減少、大会成績低迷、校友会再編成に伴い、より一層の支援が必要になってきます。そこで、以下の通り活性化の方策について総会で承認を得ましたので、ご協力をお願いします。

#### ア 期連絡網の活性化

- (ア) 各期連絡員は、電子メールアドレスを防大に通報し、電子メールによって常時連絡を取り合うとともに、各期会員のメールアドレスを掌握し防大に通報する。
- (イ) 総会には各期連絡員（不可能な場合は代理者）が必ず参加する。

#### イ 各種大会、合宿等への激励の積極化

- (ア) 防大から大会・合宿日程を早めに広報する（ホームページの活用）とともに、大会等間近には、各期連絡員に連絡し激励の徹底を図る。
- (イ) OB杯演武大会にはOB発表の部を設け、演武発表を通じての後輩激励の機会を設定する。

#### ウ 会員の防大指導官配置策の推進

- (ア) 各期学生課に提出する部顧問転属要望には、本人と調整した後、確実な名簿を提出する。
- (イ) 防大指導官相当期の連絡員は、防大転属希望者を早くから掌握し、防大に通報する。
- (ウ) 各幕所属の会員は、各幕の人事担当者とは転属に関し、直接調整する。

### 3 平成11年度会計報告

別紙第2「平成11年度奥平会決算報告書」を参照してください。

## 平成12年度奥平会活動予定

### 1 平成12年度奥平会活動内容

平成11年度の活動内容とほぼ同じ

### 2 平成12年度奥平会本部

役職	期別	氏名	連絡先
会長	17F	石渡 幹生	8-33-4015
副会長兼会計監査委員	18F	笠原 久	8-40-3855
幹事	27A	米山 多佳志	8-40-3807
会計	39A	井上 嘉史	8-40-3181
庶務	40A	上野 洋介	8-40-3616

### 3 活動に当たっての重点事項

- (1) 懸案であった財政不足を平成12年度に解決する。
- (2) 新入部員獲得に重点的な支援を行う。(ダイレクトメール、金銭支援、勧誘活動)
- (3) 指導に当たる4学年が4名であるので、OBが積極的に技術指導に当たる。
- (4) OBの技術向上のため、武道専門学校への入学及び各種大会への参加を11年度以上に推進する。
- (5) 他駐屯地・基地からのOB支援・激励を積極的に得る。

## 連絡事項

### 1 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄しております。本人もしくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気付きの点がございましたら期連絡担当者又は防大本部庶務まで御連絡ください。なお、今年度は期担当連絡者から連絡がほとんどはいらなかったため、各人の所属等は防大同窓会及び昨年度のデータを使用いたしました。

平成11年度奥平会活動成果報告

1 少林寺拳法部活動支援

- (1) 平成11年度防人少林寺拳法部活動成果参照
- (2) 各種活動に対し、防大所属会員により金銭的・人的支援を実施した。
- (3) 夏合宿、関東学生大会、全日本大会には近隣の会員からの激励、金銭的支援を受けた。

2 横須賀・三浦ブロック活動参加

- (1) 月例会議参加（監督・米山）
- (2) 7月25日：神奈川県大会協力（競技集計係）
- (3) 11月28日：横須賀市民大会協力（競技集計係）
- (4) 合同練習及びビデオ撮影協力（月1回）
- (5) ブロック新春の集い協力及び参加

3 関東学生OB連合会活動参加

- (1) 2月17日：新春の集い参加
- (2) OB交流会参加（関東学生大会時）
- (3) 7月18日：総会参加
- (4) 11月23日：OB現役懇親会協力及び参加（近隣駐屯地から会員2名が支援）
- (5) 連合会OB名簿作成協力

4 校内活動

- (1) 少林寺拳法部顧問会議（月1回）
- (2) 政権・OB合同会議（必要の都度）
- (3) ホームページの作成及び運営
- (4) OBの指導力の向上：武道専門学校入学（米山）、OBの県大会・自衛隊大会・全国大会参加（米山・松崎・遠藤・井上・上野）

## 奥平会名誉会員名簿

職名	氏名	現所属及び役職	連絡先
部長	菅野 等	化学教室 教授	〒236-0042 横浜市金沢区釜利谷東6丁目34番1-411 TEL045-786-5877
師範	田村倉蔵	正範士7段	〒187-0041 小平市美園町3-27-5 TEL0423-43-0416
師範	神田憲和	三多摩副道院長 大拳士6段	〒164-0003 中野区東中野2-14-7
師範	頼富英武	少年工科学学校顧問 准範士6段	〒238-0315 横須賀市林5-6-11 TEL0468-56-7663
前部長	丸川武志		〒120-0046 足立区小台2-33-2 TEL03-3919-5910
顧問	有賀 敏	材料物性工学教室 講師	〒239-0814 横須賀市二葉1-55 A-202 TEL0468-44-0264
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平会名誉会長)		〒828-0044 豊前市小石原392-3 TEL0979-82-2287

## 2 期連絡網について

期連絡網について別項のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等がありましたら期連絡担当者まで御連絡ください。

## 3 本部連絡先

防衛大学校理工学研究科（地球科学）

2等陸尉 上野 洋介

専用線 8-40-3616

局線 0468-41-3811 (3616)

e-mail [g38060@cc.nda.ac.jp](mailto:g38060@cc.nda.ac.jp)

## 4 2001年国際大会について

2001年4月28日～5月1日までフランス・パリで国際大会が開かれます。防大少林寺拳法部としては、団体演武を国際大会に出場させたいと考えています。国際大会に出場するためには、2000年の全国大会での優秀な成績が条件になります。全国大会出場権は神奈川県大会で決定されるため、7月の訓練期間中に県大会に出場しなければなりません。このため、大会当日に学生を帰校させるか、OBが代わりに出場する必要があります。また、国際大会出場権を獲得した場合、奥平会から旅費の支援をお願いすることになると思います。ご協力をお願いします。

## 5 関東学生OB連合会会員名簿について

関東学生OB連合会会員名簿が平成11年度末に完成します。今回はCD-ROMにデジタルデータで記録されています。奥平会としては協賛金2万円を支払い、4枚を受領することになっていますが、個人的に必要な方は1枚1000円で販売されますので、ご連絡ください。

## 6 その他

- (1) 会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは本部庶務まで、ご本人若しくは近傍の会員の方からご一報いただきますようお願いいたします。
- (2) インターネットの防大ホームページ (<http://www.nda.ac.jp/index-j.html>) に少林寺拳法部のホームページを開設いたしております。活動状況、成績等も逐次掲載しておりますので是非ご覧ください。また、経済的にも作業的にも防大本部員を圧迫してきた会報の作成・配布をこのホームページ

に代えることも検討しております。

## 7 奥平会名簿

名誉会員名簿の後に添付いたしました。ご覧ください。



## 平成11年度奥平会決算報告書(平成11年1月1日～同年12月31日)

## 1 収支報告

収入	
前年度繰越金	1,571,556
43期生OB会費	537,000
支援金等	10,000
利息	21,418
小計	568,418
総計	2,139,974

支出	
大会支援金	
関東学生大会	50,000
神奈川県大会	10,000
全国自衛隊大会	20,000
全国大会	40,000
全日本学生大会	80,000
小計	200,000
合宿支援金	
夏合宿支援金	10,000
技術向上支援金(師範代)	300,000
奥平会運営費	
関東OB連合会関連	62,758
三浦ブロック関連	33,000
部誌発行関連	40,631
OB杯・慶事等	12,264
小計	148,653
総計	658,653

## 2 残高報告

1,481,321円

上記内容に相違ありません。


平成11年度奥平会会計係

遠藤 英 

## 3 会計監査

厳正な監査の結果、会則に基づき適正に運営されていることを報告します。

会計監査委員

坂野 佳典 

期別	要員	氏名	基地等	所屬部隊等
10	A	黒野 耐	目黒	防衛研究所主任研究官
10	A	三井 光夫	目黒	防衛研究所
10	A	松島 順一		
10	A	清水 眞男	目黒	幹部学校研究部長
10	A	蔵田 弘明	退職	安田火災海上保険(株)
10	F	出田 弘一	退職	889-1403 大東京火災宮崎サービスセンター調査部
10	F	鈴木 盛人	退職	第1航空団 団司令部
10	N	関崎 昭一	退職	231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原11-1-1103 三浦海岸ハイ714-1441
11	A	坂元 正昭	退職	国際デジタル通信(株)
11	A	藤野 建郎	退職	664-0004 伊丹市東野7-61-1 エミネンス東野305
11	A	須崎 了英	健軍	西部方面給幹部
11	A	水野 照夫	用賀	関東補給処 用賀支処
11	A	廣岡 征夫	退職	広岡事務所
11	F	上田 勇作	退職	南国殖産(株)
11	F	清水 正睦	人間	中部航空方面隊司令部
11	F	田谷 俊之	札幌	北部方面給幹部
11	F	藤田 尚	人間	第4補給処副処長
11	N	佐藤 正秀	退職	愛心会大隅鹿屋病院
11	N	渡辺 貞吉	退職	(株)日立アドバンスシステムズ
12	A	衛藤 利治	小郡	小郡駐屯地業務隊
12	A	新井 宏	御逝去	
12	F	田中 敏治	府中	調本府中調事
12	F	野口 昭徳	熊谷	第4衛科学校第2教育部長
12	N	橋田 典幸	佐伯	佐伯基地分遣隊
12	N	佐藤 備凡		
12	N	津川 保夫	呉	JRC特機呉事業所
13	A	益田 修	小倉	小倉駐屯地業務隊
13	A	戸田 勝秋	守山	第10後方支援連隊 本部及び本部付隊
13	A	高本 俊之	千僧	千僧駐屯地業務隊
13	A	西村 繁樹	目黒	幹部学校教官
13	A	石原 薩雄	北熊本	北熊本駐屯地業務隊
13	A	白石 克成	小平	業務学校
13	F	松生 剛	芦屋	第13飛行教育団 団司令部 給務部
14	A	原田 敏男	山口	第17普通科連隊 本部及び本部管理中隊
14	A	清水 重周	真駒内	北部方面輸送隊 本部及び本部付隊
14	A	清水 直正	相馬原	相馬原駐屯地業務隊
14	A	齊藤 正精	退職	日本IBM(株)
14	A	赤瀬 良二	富士	富士学校
14	A	中原 勇	愛知	愛知地方連絡部
14	F	高須 好美	退職	高須電気エンジニアリング(株)
14	F	今井 岸男	退職	三浦機器(株)
14	N	森田 則広	御逝去	
15	A	安村 幸次	横浜	横浜防衛施設局事業部
15	A	井口 昌之	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
15	A	遠田 雅美	函館	函館駐屯地業務隊
15	A	奥野 耕三	京都	京都地方連絡部
15	A	岡 隆	朝霞	第31普通科連隊 本部及び本部管理中隊
15	A	加藤 三千夫	伊丹	中部方面給幹部
15	A	花房 晃夫	北熊本	北熊本駐屯地業務隊 給務課
15	A	古川 照久	伊丹	中部方面給幹部
15	A	三嶋 利克	檜町	檜町警備隊本部 管理課
15	A	上杉 和壽	朝霞	東部方面輸送隊 本部及び本部付隊
15	A	大竹 義信	岩見沢	第12施設群 本部及び本部管理中隊
15	A	長船 敬天	日本原	第13特科隊 本部及び本部管理中隊
15	A	土居 良治	札幌	北部方面警務隊本部
15	A	野間口 光男	退職	鹿児島県立給良病院
15	F	島田 徹	奈良	幹候校 給務課
15	F	福岡 健司	春日	西警団 基地業務群
15	N	今村 修二	呉	ひえい
15	N	山下 啓介	退職	(株)インテック 特機システム部
15	N	山崎 富雄	横須賀	電子情報支援隊
15	N	中島 栄一	横須賀	自衛艦隊司令部
16	A	芦岡 広明	福岡	第4後方支援連隊 本部及び本部管理中隊
16	A	岡田 正一	姫路	姫路駐屯地業務隊
16	A	佐々木 二郎	練馬	練馬駐屯地業務隊
16	A	齊藤 健治	前川原	幹候校
16	A	竹内 準一	普通寺	普通寺駐屯地業務隊
16	A	内山 晃	市ヶ谷	中央資料隊
16	A	富本 啓一	丘珠	北部方面航空隊 本部及び本部付隊
16	A	平川 真土	富士	富士学校
16	F	小笠原 猛	退職	自営業
16	F	八木 享	御逝去	
16	N	阿部 哲夫	横須賀	誘導武器教育訓練隊
16	N	福島 一夫	御逝去	
17	A	吉川 雄二	上富良野	第117特科大隊 本部および本部中隊
17	A	荒木 正廣	日本原	日本原駐屯地業務隊
17	A	高橋 輝正	退職	NEC無線事業本部 誘導光電事業部
17	A	佐藤 吉信	十条	補給統制本部
17	A	小坂 正志	檜町	訓練実施本部
17	A	小池 保治	福島	自衛隊福島地方連絡部
17	A	村田 芳次	富士	富士学校

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
17	A	吉孝	富士	富士学校
17	A	中尾 定雄	市ヶ谷	通信団 本部および本部付隊
17	A	富安 久芳	小倉	第40普通科連隊 本部及び本部管理中隊
17	A	福澤 賢	練馬	第1普通科連隊 本部及び本部管理中隊
17	A	鈴木 福城	伊丹	中部方面給監部
17	A	廣瀬 誠	伊丹	西部方面給監部
17	F	磯野 茂樹	熊谷	航空自衛隊第4術科学校第1教育部
17	F	稻見 源	木更津	1補 整備部
17	F	永富 信吉	那覇	南混司 監察官
17	F	細田 敏夫	那覇	退職
17	F	山本 剛	那覇	退職
17	F	松田 清明	那覇	南混司 装備部 計画課
17	F	西岡 義博	入間	3補 給務課
17	F	石渡 幹生	目黒	航空自衛隊幹部学校研究部 第2研究室
17	F	前田 慎一	静浜	11教団 団司令部 教育部
17	F	澤 博海	退職	
17	N	久和 清幸	横須賀	横須賀戦術訓練装備運用隊
17	N	西崎 正幹	退職	
17	N	塔岡 道夫	横須賀	誘導武器教育訓練隊
18	A	安藤 恒夫	朝霞	朝霞駐屯地業務隊
18	A	河野 基春	榑町	統合幕僚会議事務局
18	A	宮田 秀二	立川	東部方面航空隊 本部および本部付隊
18	A	工藤 重見	大宮	化学学校
18	A	紫村 敏二	高田	第5施設群 本部及び本部管理中隊
18	A	首藤 敏明	島松	北海道補給処
18	A	上田 正文	朝霞	東部方面給監部
18	A	千原 和人	札幌	北部方面給監部
18	A	川原 彰	真駒内	第101地区警備隊
18	A	大西 正俊	榑町	陸上幕僚監部 教育訓練部
18	A	中島 仁文	健軍	西部方面給監部
18	A	渡辺 義幸	敵塚	第3高射特科群 本部および本部管理中隊
18	A	門野 睦雄	十条	補給統制本部
18	A	懸澤 章雄	鹿追	鹿追駐屯地業務隊
18	F	笠原 久幸	防大	防衛大学校空防教室
18	F	杉米 良一	春日	西空司 装備部 計画課
18	F	長尾 齋	静岡	静岡地方連絡部
18	F	白敏 裕樹	退職	京都産業大学
18	N	岩間 秀樹	横須賀	第5護衛隊
18	N	近藤 清司	下総	教育航空集団司令部
18	N	松井 博	下総	海自 第3術科学校
18	N	平原 誠	目黒	防衛研究所 第1研究部 第3研究室
19	A	園部 武典	榑町	陸上幕僚監部 調査部調査課
19	A	横島 秋男	退職	
19	A	屋久 俊郎	宇都宮	第12特科連隊 第1特科大隊 本部および本部管理中隊
19	A	古庄 和裕	朝霞	東部方面給監部
19	A	三星 忠正	仙台	東北方面調査隊
19	A	青柳 忍	高田	第2普通科連隊 本部及び本部管理中隊
19	A	園敏雄	勝田	施設学校
19	A	津留清宝	榑町	防衛施設庁
19	A	東 光博	退職	防衛フォーカスシステムズ 279-0026浦安市井天2-17-12
19	A	迫田 直心	真駒内	第18普通科連隊 本部及び本部管理中隊
19	A	野村 俊朗	下志津	高射学校
19	A	廣瀬 和紀	健軍	西部方面給監部
19	F	磯 光三	十条	補本 2部 2調連課
19	F	園山 栄一	退職	
19	F	吉本 博	岐阜	第2補給処 整備部
19	F	藤田 進	松本	教集団司令部 教育第1課
19	F	後藤 章	退職	トライアム・サンカクヤ
19	F	小曲 一之	目黒	統合幕僚学校 研究室
19	F	松下 陸裕	榑町	
19	F	杉山 昌宏	退職	東芝マイクロエレクトロニクス(株) ASIC開発部
19	F	田中 秀明	相模原	技術研究本部 第4研究所
19	F	藤井 和弥	芦屋	13教団 整備補給群
19	N	松山 守秀	館山	第123航空隊
20	A	高岡 正明	健軍	西部方面給監部
20	A	榑 喜隆	久里浜	通信学校付
20	A	山形 克己	榑町	陸上自衛隊 装備部航空機課
20	A	小林 実	富士	装備開発実験隊
20	A	浅原 昭夫	明野	飛行開発実験隊
20	A	仲原 久晃	目黒	陸上自衛隊幹部学校
20	A	楠本 裕幸	朝霞	東部方面給監部
20	A	馬場 修	退職	星商事(株) 東京文社
20	A	半澤 康司	目黒	陸上自衛隊幹部学校
20	A	伏木 亨	榑町	調達実施本部
20	F	岳川 清美	市ヶ谷	統合幕僚会議事務局 情報本部
20	F	岸本 昌文	退職	三菱重工業(株) 名古屋航空宇宙システム製作所
20	F	高林 久	府中	航空給隊司令部 防衛部 防衛課
20	F	石田 裕	熊谷	航空自衛隊第4術科学校 第1教育部
20	F	田中 和之	市ヶ谷	情報本部
20	F	南園 宏	三沢	警戒航空隊 601飛隊
20	N	木村 孝彦	榑町	海上幕僚監部 人事教育部教育課

期別	要員	氏名	基地等	所屬部隊等
21	A	園田 郁夫	仙台	宮城地方連絡部
21	A	加藤 隆	鹿追	第5対戦車隊
21	A	花田 一志	仙台	東北方面総監部総務部
21	A	貴志 倫生	伊丹	会計監査隊中部方面分遣隊
21	A	桑原 舜夫	檜町	陸幕管理部法務課
21	A	湖崎 隆	檜町	陸幕防衛部防衛課
21	A	高橋 久奏	仙台	東北方面総監部監察室
21	A	大谷昭次郎	檜町	陸幕調査部調査課
21	A	渡部 誠	富士	装備開発実験隊
21	A	浜崎 勝	駒門	第1特科連隊 第2特科大隊 本部及び本部管理中隊
21	A	野中 敏治	御遠去	
21	A	澤井 研次	札幌	北部方面総監部防衛部
21	F	黒澤 豊彦	浜松	1術校 第2教育部
21	F	朱 永武	留学生	シンガポール在住
21	F	松本 修司	千歳	第2航空団施設隊
21	F	沼田 幸男	十條	補本 1部 1整備課
21	F	真田 雅章	那覇	南混司 防衛部 運用課
21	F	杉本 弥行	十條	補本 1部 1整備課
21	F	田原 俊幸	檜町	空幕防衛部防衛課
21	F	鍋島 和史	退職	
21	F	平本 行	百里	第7航空団司令部
21	F	木山 幸保	十條	補本 計画部 補給課
21	F	廣江 勝馬	十條	補本 計画部 会計課
21	N	笹山 宏	退職	(株)笹島板金工業
21	N	山口 次郎	大村	大村航空隊
21	N	村田 隆齊	目黒	幹部学校幹部高級課程学生
21	N	福岡 誠	檜町	海幕監理部総務課
22	A	永栄 文晴	檜町	陸上幕僚監部 装備部 開発課
22	A	吉岡 理二	檜町	陸上幕僚監部 装備部 施設課
22	A	原田 繁	札幌	北部方面総監部防衛部
22	A	財城 昭彦	旭川	第2師団司令部
22	A	松村 利宏	川内	第8施設大隊 本部及び本部管理中隊
22	A	松本 俊二	島松	北海道補給処
22	A	大本 健吾	朝霞	第101施設器材隊 本部及び本部管理中隊
22	A	島松 正一	八戸	第8高射特科群
22	A	野口 利保	檜町	陸上幕僚監部付
22	F	永瀧 盛重	人間	第3補給処 資計部 資計課
22	F	横手 裕明	檜町	統合幕僚会議事務局
22	F	酒井 伸	芦屋	第13飛行教育団 飛教群 2飛教隊
22	F	小関 信宏	府中	防空指揮群 通信電子隊
22	F	堂込 勝也	檜町	空幕 整備課 整備基準班
22	F	木戸 文夫	檜町	空幕 調査課 情報室
22	F	野村 健廣	十條	補本 計画部 企画課
22	N	延近 保生	檜町	海上幕僚監部 監理部総務課
22	N	高塚 裕幸	目黒	海上自衛隊 幹部学校
22	N	中谷 茂	奥	第1掃海隊
22	N	塚田 真司	横須賀	自衛艦隊司令部
22	N	坊垣内 広明	横須賀	第2潜水隊群幕僚
23	A	浦川 平次	習志野	第1空挺団本部
23	A	奥野 和男	仙台	東北方面総監部
23	A	丸山 和宏	札幌	北部方面総監部
23	A	岩田 清文	檜町	陸上幕僚監部 防衛部運用課
23	A	三木 文秀	伊丹	第104通信運用大隊 本部及び本部管理中隊
23	A	若杉 治徳	札幌	北部方面総監部
23	A	谷崎 敏弘	滝川	第10普通科連隊本部及び本部管理中隊
23	A	日高 政広	相模原	第12師団司令部
23	A	廣塚 雅史	檜町	陸幕防衛部運用課
23	F	シンナロン	留学生	タイ王国在住
23	F	宮田 義章	芦屋	3術校 第2教育部
23	F	松尾 茂	松島	第402基地防空隊
23	F	川添 一正	退職	
23	F	池邊 正	目黒	航空自衛隊 幹部学校
23	F	馬谷 誠二	退職	KSI(株)
23	N	井口 義定	岩国	第31整備補給隊
23	N	井之久 保雄三	目黒	海上自衛隊 幹部学校
23	N	山下 啓治	目黒	海上自衛隊幹部学校研究部員
23	N	四元 和生	横須賀	ゆきしお
23	N	数野 謙一	舞鶴	舞鶴地方総監部 管理部 総務課
23	N	畑中 孝行	檜町	海上幕僚幹部 人事教育部 補任課
24	A	笹葉 貞志	檜町	第6飛行隊
24	A	芹川 慎介	市ヶ谷	中央調査隊
24	A	金田 辰美	十條	陸上自衛隊 補給統制本部
24	A	高澤 慎司	退職	㈱東京アイシーエス
24	A	山川 純次	檜町	陸上幕僚監部 装備部 開発課
24	A	山田 雅巳	仙台	東北方面総監部 防衛部 防衛課
24	A	常田 義則	退職	日立フユウター機器㈱
24	A	西津 護	伊丹	中部方面総監部
24	A	浅野 博義	富士	富士学校
24	A	太田 尚志	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
24	A	大久保和美	新発田	第30普通科連隊 本部および本部管理中隊
24	A	中村 健蔵	旭川	第2特科連隊 第3特科大隊 本部及び本部管理中隊

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
24	A	堀之内 誠	東立川	中央地理隊 本部及び本部管理中隊
24	A	湖 靖隆	竹松	第108高射直捷支援隊
24	F	佐藤 秀幸	目黒	航空自衛隊 幹部学校
24	F	山田 眞一	春日	西部航空方面隊司令部 防衛部 防衛課
24	F	出口 深	目黒	航空自衛隊 幹部学校
24	F	清水 尚志	入間	3補 調達部 原計課
24	F	中館 利光	入間	4補 調達部 輸入課
24	F	藤城 希恭	府中	航空総隊司令部 防衛部 運用課
24	N	佐伯 泰啓	横須賀	自衛艦隊司令部
24	N	山本 浩	退職	岡山本産業
24	N	小川 勝志	呉	あきしお
24	N	松田 俊宏	退職	
24	N	中村 早速	舞鶴	みょうこう
24	N	長谷川 隆	退職	函ムーブ
25	A	岡元 正一	富士	富士学校
25	A	佐伯 義次	檜町	陸上幕僚監部 教育訓練部訓練課
25	A	若本 順二	宇治	関西地区補給処
25	A	重石 義幸	檜町	陸上幕僚監部 防衛部運用課
25	A	小菅 康雄	檜町	技術研究本部
25	A	小野 寺 靖	檜町	陸上幕僚監部 教育訓練部訓練課
25	A	石川 哲也	朝霞	東部方面給監部 法務課
25	A	大内 元	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
25	A	田草 茂人	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
25	F	安妻 一	檜町	統合幕僚会議事務局 第1幕僚室 企画班
25	F	坂本 卓己	檜町	航空幕僚監部 整備課 整備1班
25	F	藤吉 恵一	十条	補本 計画部 企画部
25	F	尾崎 信朗	那覇	83空 整備群 装備隊
25	N	河村 正雄	檜町	海上幕僚監部 人事教育部 補任課
25	N	高島 修	檜町	海上幕僚監部 人事教育部 教育課
25	N	杉原 耕二	檜町	外務省出向
25	N	内山 哲也	呉	のしろ
25	N	籾谷 豊年	横須賀	プログラム業務隊
26	A	河原 敏和	退職	第1地所(外)
26	A	吉田 英紀	檜町	陸上幕僚監部 監察官
26	A	吉田 吉安	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
26	A	及川 幸夫	富士	富士学校
26	A	金子 寿弥	普通寺	第310武器野整備中隊
26	A	坂野 佳彦	防大	防衛大学校陸防教室
26	A	山下 清隆	檜町	陸上幕僚監部 調査部調査課
26	A	小野 長門	退職	熊本工業大学
26	A	松田 正行	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
26	A	石山 暁	相馬原	第12師団司令部
26	A	石川 毅	朝霞	東部方面給監部
26	A	滝沢 由則	退職	三菱XV-577(外)
26	A	谷 俊彦	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
26	A	中村 明弘	退職	横浜市緑区長津田3-27-14-102
26	A	内海 浩	檜町	陸上幕僚監部 装備部航空機課
26	A	友部 隆	富士	富士学校
26	F	星川 敦	十条	航空自衛隊補給本部 2部 2整備
26	F	池田 暢也	檜町	航空幕僚監部 整備課 整備第4班
26	F	福島 睦	百里	第7航空団 飛行群 305飛隊
26	F	米子 誠二	目黒	航空自衛隊 幹部学校 教育部
26	F	澤木 悽輔	退職	未来産業団
26	N	佐藤 寿紀	檜町	海上幕僚監部 防衛部 運用課
26	N	市坪 秀明	檜町	海上幕僚監部 防衛部 運用課
26	N	上野 真一郎	厚木	第51航空隊
26	N	水野 伸彦	八戸	第2航空隊
26	N	杉山 義和	勝連	沖縄基地隊 第46掃海隊
26	N	相良 達也	厚木	第3航空隊
26	N	道満 誠一	檜町	海上幕僚監部 人事教育部 補任課
26	N	平野 勝	舞鶴	舞鶴地方給監部
27	A	角南 良治	檜町	陸幕防衛部防衛課
27	A	行事 正	八戸	第5高射特科群 第319高射中隊
27	A	山之上 哲郎	檜町	陸幕人事部人計課
27	A	緒方 慎浩	御逝去	
27	A	川村 治彦	退職	小野田自然塾
27	A	大民 一之	三宿	技術研究本部
27	A	大場 基英雄	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
27	A	大石 隆一	小平	調査学校
27	A	長合 友造	旭川	第2施設大隊 本部及び本部管理中隊
27	A	津田 浩司	健軍	第5地对艦ミサイル連隊 本部及び本部管理中隊
27	A	馬場 政和	退職	不明
27	A	舞原 博己	檜町	陸上幕僚監部 装備部通信電子課
27	A	米山 多佳志	防大	防衛大学校陸防教室
27	A	磯田 秀	弘前	大39普通科連隊 本部及び本部管理中隊
27	F	兼古 修	新田原	第5空団飛行群202飛行隊
27	F	元木 啓嗣	檜町	空幕 教育課 技科教育班
27	F	甲斐 新太	築城	8空団 整備群 修理隊
27	F	高野 宗治	目黒	航空自衛隊 幹部学校
27	F	小川 昌宏	きりさめ	
27	F	西山 利昭	退職	水沢税務会計事務所

8-234-230  
230

期別	要員	氏名	基地等	所屬部隊等
27	F	蔵田 衛人	退職	日商岩井
27	F	沢村 徹	退職	リアル
27	F	堀田 隆治	浜松	第1空団整備補給群補給隊
27	N	益田 徹也	檜町	海上自衛隊 東京業務隊
27	N	五領 隆男	呉	呉地方総監部管理部門人事課
27	N	交口 俊介	呉	はるゆき
27	N	山田 洋士	厚木	第51航空隊
27	N	足立 謙聡	人間	航空救難団 団司令部 防衛部
27	N	中里 巧	退職	中島機械(株)
28	A	永井 大介	退職	日立造船システム
28	A	越水 達哉	退職	
28	A	岡澤 武彦	富士	富士学校
28	A	吉田 正人	退職	大倉商事 メカトロニクス部
28	A	畦地 勇	退職	在米日本大使館
28	A	古賀 敏明	富士	富士学校特科部
28	A	幸野 英明	檜町	陸幕教訓部教育課
28	A	三好 邦夫	富士	装備開発実験隊
28	A	足立 彦彦	檜町	統合幕僚会議
28	A	鶴見 耕市	退職	東電設計(株)
28	A	湯浅 悟郎	檜町	海上幕僚監部 防衛部防衛課
28	A	藤原 修	檜町	陸幕装備部開発課
28	A	日高 信行	富士	富士学校総研部
28	A	北原 秀章	福岡	第4偵察隊
28	A	矢野 光宏	檜町	陸幕教訓部訓練課
28	F	今井 邦夫	檜町	空幕補給課補給第3班
28	F	山田 頭嗣	檜町	空幕援護業務課計画班
28	F	神山 隆	退職	キャン
28	F	白水 裕人	檜町	空幕 運用調査官
28	F	米田 健二	不明	
28	F	堀米 浩章	千歳	第2空団司令部監理部
28	F	末廣 勝巳	岐阜	飛行開発実験団飛空群飛行隊
28	N	河津 稔	檜町	海幕監理部経理課
28	N	上野 清昭	檜町	海上幕僚監部 防衛部防衛課
28	N	西小路 謙	退職	航空大学校
28	N	竹本 直忠	檜町	海上幕僚監部 人事教育部 厚生課
28	N	中川 勝也	退職	トヨタ自動車第2ボデー設計部
28	N	内田 公明	横浜	調達実施本部 横浜支部
28	N	平島 一	退職	日本電産相談(株)
28	N	鈴木 巧	退職	フクダ福田電子
29	A	松岡 恭一	退職	日立製作所(株)
29	A	駒井紀美彦	前川原	海上自衛隊幹部候補生学校教育部第3教育科
29	A	古川 靖人	練馬	第1後方支援連隊武器大隊第1中隊長
29	A	古田 清悟	福岡	第4師団司令部第3部訓練班長
29	A	甲斐 正人	檜町	情報本部
29	A	坂井 辰也	海田市	第13通信大隊S-3主任
29	A	新保 博徳	霞ヶ浦	関東補給処
29	A	水上 義仁	久里浜	通信学校
29	A	青柳 光	退職	山梨779:7(株)
29	A	川上 和美	退職	不明
29	A	浅川 玉樹	退職	日産自動車(株)
29	A	大川 浩史	富士	富士学校
29	A	託摩 安廣	退職	たくま歯科医院
29	A	谷 拓弥	檜町	陸幕訓練教育部教育班
29	A	中村 浩之	檜町	海上幕僚監部 人事部援護業務課
29	A	津田 芳明	松戸	第2高射特科群 第302高射搬送通信中隊長
29	A	立林 剛	檜町	陸幕訓練教育部訓練班
29	A	鈴木 裕一郎	御逝去	
29	A	姥原 良雄	檜町	陸幕装備部武器化学課車両班
29	F	熊田原 修	岐阜	飛行開発実験団整備群整備隊長
29	F	高松 実	檜町	空幕 整備課 整備第1班
29	F	西村 政恭	三沢	6高群 指揮所運用隊
29	N	宮田 敏邦	舞鶴	舞鶴地方総監部管理部門人事課
29	N	佐竹 右機	退職	
29	N	山崎 浩一	檜町	海上幕僚監部 監理部給務課
29	N	小屋敷 秀彦	退職	
29	N	柏木 均	檜町	海上幕僚監部 防衛部通信課
30	A	笠島 広文	退職	鯖江市役所市長室
30	A	岩熊 真司	檜町	陸幕装備部開発課
30	A	龜山 淳弘	市ヶ谷	32普連2中隊長
30	A	宮本 善弘	福岡	第4師団司令部
30	A	魚住 晴康	立川	東方ヘリ隊 第2飛行隊
30	A	魚野 治晴	退職	リョウマ証券(株)
30	A	山口 芳正	練馬	第1師団司令部
30	A	松岡 恭一	退職	日立製作所(株)
30	A	菅野 俊夫	檜町	海上幕僚監部 装備部開発課
30	A	西 良典	朝霞	31普連1中隊長
30	A	船津 達男	退職	嘉穂東高校
30	A	池水 博和	檜町	陸幕装備部通信電子課
30	A	中井 肇	退職	日本アーム工業
30	A	中森 雅美	檜町	防衛庁内部部局
30	A	中川 洋行	明野	陸自飛行開発実験隊

期別	要員	氏名	基地等	所 属 部 隊 等
30	A	中村 大助	那覇	第1混成団本部及び本部付隊
30	A	土屋 甲吉	檳榔	陸上幕僚監部 防衛部防衛課
30	A	福田 洋司	檳榔	陸上幕僚監部 人事部補佐課
30	A	矢納 裕二	檳榔	陸上幕僚監部 監理部会計課
30	A	林 宏幸	札幌	会計監査隊 北部方面派遣隊
30	F	吉田 憲司	浜松	第2術科学校教務課
30	F	橋爪 猛	檳榔	空幕 補給課 補給第3班
30	F	栗田 尚幸	御逝去	
30	F	後藤 豊	退職	上山病院
30	F	高橋 親敏	新田原	5空団 基 群 管理隊
30	F	黒田 健一	退職	フランス在住
30	F	西本 彰雄	檳榔	統幕事務局
30	N	時久 寛司	檳榔	海上幕僚監部人事教育部履業務課
30	N	湯浅 秀樹	横須賀	プログラム業務隊
30	N	百崎 邦彦	小月	小月教育航空隊
30	N	鈴木 達雄	退職	三菱重工
31	A	亀山 慎二	東千歳	第7師団司令部第3部 訓練班
31	A	吉武 辰明	朝霞	輸送学校
31	A	久富 博幸	退職	新日本証券(株) 債権部商品課
31	A	久保 敏浩	富士	富士学校機甲科部
31	A	橋本 哲彰	真駒内	第11師団司令部 第3部 防衛班
31	A	佐野 光	明野	航空学校
31	A	松井 健一	富士	裝備開発実験隊
31	A	石丸 威司	檳榔	陸上幕僚監部 防衛部研究課
31	A	大島龍一郎	退職	松下興産(株)
31	A	辰巳 竜悟	退職	TUVラインランド技研(株) システム認証部
31	A	池ノ本 八郎	土浦	武器学校
31	A	中川 博美	大宮	化学学校
31	A	椎野 健治	立川	東部方面隊航空隊
31	A	辻 政幸	目黒	陸上自衛隊幹部学校
31	A	田口 直志	島松	北部方面武器隊本部
31	A	藤岡 志樹	多賀城	第8普通科連隊 第2中隊
31	F	阿部 博文	府中	支隊団司令部 防衛部 防衛課
31	F	近藤 良彦	三沢	第3航空団 飛行群 3飛隊
31	F	沢沢 寛	立川	航空安全管理隊 資料部
31	F	小南 良人	御逝去	
31	F	北村 克晶	府中	輸送司 防衛部 通電課
31	F	野沢 隆一	目黒	航空自衛隊 幹部学校
31	N	岡田 岳司	目黒	海上自衛隊 幹部学校
31	N	蝦名 伸治	舞鶴	はまゆき
31	N	久保田 修一	横須賀	プログラム業務隊
31	N	甲斐 義博	京都	京都地方連絡部
31	N	大井 一史	小松島	小松島航空隊
31	N	追田 浩文	市ヶ谷	中央通信隊群司令部
32	A	境 孝明	滝川	第10普通科連隊 第2中隊
32	A	更之 雅彦	退職	奈良県警察
32	A	山地 伸一	檳榔	外務省 オーストラリア大使館
32	A	市来 道啓	退職	秋田造船税理士事務所
32	A	小原 真二	退職	エア・ニッポン
32	A	小田 益男	檳榔	統幕5室
32	A	上山 聡	小平	調査学校
32	A	神保 俊昭	退職	
32	A	川崎 誠二	前川原	陸上自衛隊幹部候補生学校
32	A	大塚 裕治	那覇	沖縄地方連絡部
32	A	大塚 和也	白川	第6高射特科群 第323高射中隊
32	A	竹内 利治	八尾	中部方面航空隊本部及び本部付隊防衛部航空班
32	A	中村 裕亮	都城	第43普通科中隊 第2中隊
32	A	田口 芳郎	退職	(株)ワールド ジオスポーツ部
32	A	福元 昌二	旭川	第2特科連隊第2大隊
32	A	福重 敏尚	大阪	大阪地方連絡部
32	A	平田 雄嗣	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
32	F	高橋 秀雄	目黒	航空自衛隊 幹部学校
32	F	山口 直人	百里	航空救難団 飛行群 百里救難隊
32	F	植村 茂己	目黒	航空自衛隊 幹部学校
32	F	渡部 誠	岐阜	飛行開発実験団 飛雲群 飛行隊
32	F	鈴木 憲	目黒	航空自衛隊 幹部学校
32	N	河上 康博	檳榔	海上自衛隊東京業務隊
32	N	後藤 幸英	退職	(株)ヒューレットパッカード インダストリーシステム事業本部
32	N	松尾 研志	退職	
32	N	澤本 武朝	退職	
33	A	柿野 忠嗣	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
33	A	智 智	退職	アメリカンファミリー
33	A	近藤 哲也	東千歳	第7特科連隊第3特科大隊第5射撃中隊
33	A	郡山 直樹	真駒内	第11特科連隊
33	A	細野 容司	前川原	幹部候補生学校
33	A	山本 真也	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
33	A	山本 裕一	宇都宮	第4施設群 本部及び本部管理中隊
33	A	川崎 英幸	退職	
33	A	天津 勝利	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
33	A	谷口 喜一郎	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
33	A	池田 誠喜	霞ヶ浦	関東補給処

期別	要員	氏名	基地等	所屬部隊等
33	A	中原 修一	東千歳	第7師団司令部第3部
33	A	椎葉 博正	退職	芙蓉給ロリース(株) 新宿支店
33	A	半澤 新吾	退職	
33	A	富樫 勇一	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
33	F	岡本 秀文	岐阜	2補 整備部 整技課
33	F	御厨 広之	府中	給隊司 防衛部 演習課
33	F	荒木 俊一	目黒	航空自衛隊 幹部学校
33	F	高草木 浩寿	松島	第4航空団飛行群
33	F	新崎 秀樹	三沢	警戒航空隊 601飛行隊
33	F	増田 友晴	目黒	航空自衛隊 幹部学校
33	N	田中 勝也	退職	(株) 兼松
33	N	鶴澤 直樹	退職	
33	N	関口 雄輝	江田島	海上自衛隊 第1術科学校
33	N	高橋 真一	退職	
33	N	西裡 純	退職	
33	N	町島 敏幸	岩国	第8航空隊
33	N	渡邊 浩	佐世保	さわかぜ
34	A	篠原 康一	霞ヶ浦	関東補給処
34	A	松永 康則	富士	富士学校
34	A	石黒 太美	木更津	第1ヘリコプター隊 第2飛行隊
34	A	竹内 博忠	槍町	技術研究本部
34	A	田丸 正勝	富士	富士学校
34	A	田中 一要	富士	装備開発実験隊
34	A	筒井 鏡達	北館本	第8師団司令部
34	A	能井 智治	朝霞	輸送学校
34	A	水室 正一郎	退職	東陶機器(株) 商品企画本部第2課
34	A	平林 理	真駒内	第11戦車大隊第2中隊
34	F	羽田 充伸	十条	補給本部1部1補課
34	F	河田 成治	退職	
34	F	小笠原 卓人	春日	第2高射群本部
34	F	田代 秀也	浜松	教集団司令部 給務部 厚生課
34	N	丹羽 清良	那覇	第5航空隊
34	N	富山 修	佐世保	あさかぜ
35	A	安藤 和幸	目黒	東北方面ヘリ隊第2飛行隊
35	A	戒田 重雄	目黒	幹部学校
35	A	坂本 雄一	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
35	A	瀬戸口 淳	八戸	第5高射特科群本部及び本部管理中隊
35	A	川崎 和之	北宇都宮	第12飛行隊
35	A	祐之原 公郎	帯広	第1対戦車ヘリコプター隊本部及び本部付隊
35	A	中村 健太郎	習志野	第1空挺団本部及び本部中隊
35	A	中本 尚明	目黒	幹部学校
35	A	馬淵 貴史	福岡	第329施設中隊
35	A	福本 博氏	東千歳	第11普通科連隊第4中隊
35	A	木場 元大	伊丹	第36普通科連隊本部及び本部管理中隊
35	F	中澤 武志	小牧	航空救難団航空救難隊
35	F	堀 修二郎	百里	第204飛行隊
35	N	加藤 寛和	横須賀	プログラム業務隊
35	N	三浦 則文	江田島	海上自衛隊 第1術科学校
35	N	森泉 周	館山	第121航空隊
35	N	中原 俊行	江田島	海上自衛隊 第1術科学校
36	A	井上 勝	防大	理工学研究科 研修生
36	A	榎野 正和	青野原	第333高射中隊
36	A	岩村 伝法	退職	
36	A	山田 武彦	久里浜	通信学校
36	A	前田 尚男	目黒	陸上自衛隊 幹部学校
36	A	倉田 一	古河	第1施設大隊 本部及び本部管理中隊
36	A	村上 至	朝霞	輸送学校
36	A	大北 知史	武山	少年工学校
36	A	中村 英昭	習志野	空挺教育隊
36	A	藤岡 史生	富士	富士学校
36	A	日高 邦登	北館本	第8特科連隊第5特科大隊第9射撃中隊
36	A	福島 浩二	槍町	情報本部
36	A	矢口 鑑	駒門	第1高射特科大隊本部及び本部管理中隊
36	F	綿森 昭示	春日	西空司令部 防衛部 運用課
36	N	鳥越 要	大湊	大湊地方総監部 副官室
37	A	河合 寿士	土浦	武器教導隊第1中隊
37	A	吉田 文二	南恵庭	第73戦車連隊 第1中隊
37	A	古田 和之	旭川	第2師団司令部第4部
37	A	山下 豊	滝川	第10普通科連隊第2中隊
37	A	児玉 洋	金沢	第14普通科連隊 第3中隊
37	A	森安 宏徳	市ヶ谷	第32普通科連隊 本部及び本部管理中隊
37	A	大山 剛	東千歳	第301高射中隊
37	A	富原 大治	出雲	第13偵察隊
37	A	平瀬 義	三宿	技術研究本部
37	F	久重 路	剛	中空司令部 整備部 施設課
37	F	中居 景	千歳	第2航空団飛行群203飛行隊
37	F	塚原 敏大	入間	第4補給処資計部資計課
37	F	矢坂 勝良	入間	飛行点検隊飛行隊
37	N	岩本 正行	厚木	厚木プログラム業務分遣隊
37	N	高取 哲郎	退職	第1航空隊 8-92-2604
37	N	石原 寿英	退職	



期別	要員	氏名	基地等	所屬部隊等
37	N	木下 治信	舞鶴	舞鶴造船補給処
37	N	鈴木 隆弘	舞鶴	ちくま
38	A	奇藤 浩	神町	第20普通科連隊第1中隊
38	A	宮下 克聡	富士	富士学校
38	A	高岡 徳大	伊丹	第36普通科連隊本部及び本部管理中隊
38	A	黒子 智彰	木更津	東部方面管制気象隊 第3派遣隊
38	A	水野 亮二	霞ヶ浦	霞ヶ浦駐屯地業務隊
38	A	尼子 将之	船田	施設教導隊第3施設中隊
38	F	向井 洋史	築城	第8航空団整備補給群修理隊
38	N	高橋 俊隆	館山	第101航空隊
38	N	佐藤 滝大	岩国	第8航空隊飛行隊
38	N	城戸 利彰	岩国	第111航空隊
38	N	中村 格	大湊	さわゆき
38	N	平井 権治	御前	
39	A	井上 嘉史	防大	総合安全保障研究科
39	A	井上 裕策	防大	第39普通科連隊 本部及び本部管理中隊
39	A	遠藤 英隆	防大	総合安全保障研究科
39	A	三好 英治	立川	東部方面ヘリ隊
39	A	小澤 謙雄	岩手	第9特科連隊第2特科大隊 本部及び本部管理中隊
39	A	杉原 正典	東千歳	第11普通科連隊 第1中隊
39	A	西田 美嗣	旭川	第2後方支援連隊衛生隊
39	A	達下 裕教	新田原	第30普通科連隊
39	A	中村 公多郎	霞ヶ浦	関東補給処
39	A	長濱 誠	退職	
39	F	野本 肇	北千歳	第1地对艦ミサイル連隊第1射撃中隊
39	F	久保 教	入間	第4補給処 調達部 課検課
39	F	前床 泰彦	三沢	第3航空団 第3飛行隊
39	F	大塚 晋介	知念	5高群 第18高射隊
39	N	松崎 徹	防大	防大理工学研究科学生
39	N	大松 清生	大湊	第4掃海隊
39	N	鳥越 涉	與	しまゆき
40	A	上野 洋介	防大	防大理工学研究科学生
40	A	水友 恒知	十条	陸上自衛隊 補給統制本部
40	A	朽木 誠	裾広	第4普通科連隊 第1中隊
40	A	熊本 敏	函館	第28普通科連隊本部及び本部管理中隊
40	A	高田 善行	古河	第1施設大隊 第3中隊
40	A	森良 一志	海田市	第13通信大隊 第2中隊
40	F	岩本 正臣	与座岳	第56警戒群 通電隊
40	F	山田 賢治	入間	中部航空警戒管制団 中防群 防管隊
40	F	守井 孝志	千歳	2空団 飛行群 203飛行隊
40	F	小坂 淳	英保	第3輸送航空隊
41	A	阿達 文明	函館	第28普通科連隊 第1中隊
41	A	吉村 岩手	岩手	第9特科連隊 第2特科大隊 第4射撃中隊
41	A	建部 広喜	滝ヶ原	第110施設大隊 第2中隊
41	A	後藤 仁志	守山	第35普通科連隊 第1中隊
41	A	佐久間 博	神町	第20普通科連隊 第1中隊
41	A	小段 雄三	遠軽	第25普通科連隊 第1中隊
41	A	小林 貴	丘珠	第11飛行隊
41	A	石井 伸幸	高田	第2普通科連隊 第2中隊
41	A	川崎 英輔	富士	特科教導隊 第1射撃中隊
41	A	曾我 信久	北熊本	第8高射特科大隊 第2高射中隊
41	A	中江 宏彰	船田	施設教導隊 水際地雷中隊
41	A	島ノ江 英敏	東千歳	第7後方支援連隊 補給隊
41	A	片上 裕文	明野	第10飛行隊
41	A	綿貫 俊一	目途原	第4飛行隊
41	F	イ・ガ・ア・ワ・ス	留学生	フィリピン
41	F	三宅 英明	浜松	教育集団司令部
41	F	松下 尚之	背振山	第43警戒群 群本部
41	F	和崎 拓己	三沢	北部航空警戒管制団 北防群 警通隊
41	N	大川 洋史	退職	
42	A	足立 泰範	松本	第13普通科連隊
42	A	井田 輝彦	久留米	第4特科連隊
42	A	葛西 成彦	喜森	第5普通科連隊
42	A	古賀 信之	千歳	第3後方支援連隊 武器大隊
42	A	清水 優	真駒内	第11後方支援連隊
42	A	清水 大	退職	退職：岩手
42	A	永島 透	日本原	第13特科連隊
42	N	尾崎 公彦	江田島	海幹校
42	N	土本 邦彦	江田島	海幹校
43	A	梅原 航	霞目	東北方面航空隊
43	A	作田 雄一	朝霞	第31普通科連隊 (警務)
43	A	関 大吾	健軍	西部方面会計隊
43	A	徳永 亘	宇都宮	第4施設群
43	A	廣瀬 繁	北熊本	第42普通科連隊 (警務)
43	A	藤本 祐介	今津	第3特科連隊
43	A	古谷 尚久	園分	第12普通科連隊
43	A	古松 俊三	伊丹	第36普通科連隊
43	A	与藤 公彦	真駒内	第11特科連隊
43	F	春日 英夫	浜松	1空団
43	N	荒栄 拓也	江田島	海幹校
43	N	江畑 孝季	江田島	海幹校

期別	要員	氏名	基地等	所属部隊等
43	N	森脇 寛二	江田島	海幹校

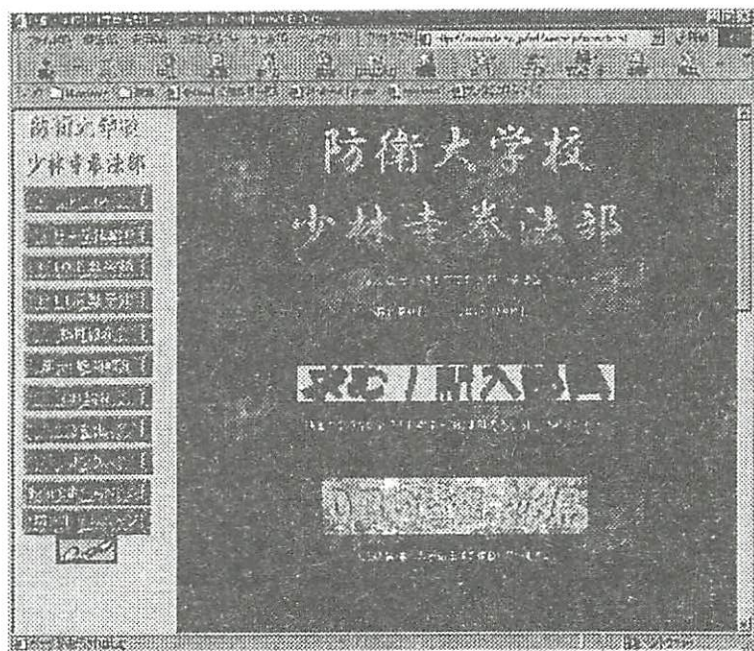
### 少林寺拳法部支援に対する御礼

本年度行われました諸大会・夏季合宿等、多くのOBの方々にご支援いただき、ありがとうございました。また、会計報告にありますように、部への活動に対して多大なる金銭的支援も頂き、この場をお借りしまして、御礼申し上げます。

部長 菅野 等

## 防大少林寺拳法部ホームページをご存じですか？

<http://www.nda.ac.jp/ed/syorinjl/index.html>



防衛大学校少林寺拳法部ではホームページを開設し、部の活動状況等をお知らせしています。ここでは、年度の活動予定・実績だけでなく、部員・顧問の紹介、奥平会会員名簿、活動史等を掲載しています。

さらに、奥平会会員への連絡ページを設け、必要な連絡事項を掲載していますので、是非御覧になってください。

OB紹介ページでは会員の方のメールアドレスをリンクしていますので、同期との交流の場としても活用できます。メールアドレスをリンクしたい方は、防大・米山までメールを送付してください。

今後さらに内容を充実させていきたいと思っておりますので、ホームページに関しご意見・ご希望がある方は、下記までご連絡ください。

### ホームページ作成担当

防衛大学校 陸上防衛学教室 米山多佳志 (27期・現監督)

TEL 0468-41-3810 (内線3807)

専用線 8-40-3807

E-mail yoneyama@cc.nda.ac.jp

